
Part 5

実習：カスタムスキルを作ってみよう

～応用編 2～



目次

目次.....	2
【応用編 2】 会話を続ける	4
応用編 2 のゴール	4
応用編 2 で作る対話モデル	4
改変方法.....	5

【応用編 2】会話を続ける

応用編 2 のゴール

応用編 2 では「砂糖の数」を受け取るようにスキルを改良します。

※今回はヒントのみ記述しますので、是非みなさんでどうすれば良いか、考えて見て下さい。もう少しヒントが欲しい方はスタッフにお聞き下さい。

以下のことができるようになります。

- ask と tell の違いを理解する
- セッションの使い方がわかる
- 複数のインテントとスロットを使ってスキルを構築できる

応用編 2 で作る対話モデル

USER 「Alexa, コーヒーショップを開いて」

ALEXA 「いらっしゃいませ。Amazon コーヒーへようこそ。今日はなににしますか?」

USER 「コーヒーを 2 つちょうだい」

ALEXA 「コーヒーを 2 つですね、ありがとうございます。砂糖はおつけしますか?」

USER 「はい」

ALEXA 「かしこまりました。いくつおつけしますか?」

USER 「1 個で」

ALEXA 「かしこまりました。ではコーヒー 2 杯と砂糖を 1 つ、ご用意致します。ありがとうございました。」

ポイント

- 新しい_intentとスロットを追加し、バックエンドのソースを改修する。

改変方法

1. 「SugarIntent」(大文字小文字に注意)を_intentに追加する
2. SugarIntent に「sugar」スロットを追加し、スロットタイプに【Number】を設定する
3. SugarIntent にサンプル発話を追加する

※ヒント: SugarIntent は対話モデルにある砂糖の数をユーザーが言う場面、< USER 「1 個で」 > に対応します。

4. OrderIntent の emit(21 行目、24 行目)を tell から ask に変え、文言を変更する

※ヒント: ask にすることで Echo がユーザーの発話を待つようになります。質問形のセリフに変えてみましょう。

5. 対話モデルを元に AMAZON.YesIntent を実装する

※ヒント: YesIntent は「はい」という発話に対応します。対話モデルではユーザーに「はい」と言われた Alexa はなんと返しているでしょう?

6. AMAZON.NoIntent を参考に SugarIntent を実装する

※ヒント: this.attributes.amount は「コーヒーの数」が入っているセッションです。また sugarSlotFilled は「砂糖の数」が入っているスロットです。コーヒーと砂糖、それぞれの数が入っている時と入っていないときで Alexa の反応を変えるように実装してみましょう。

7. テストする

Copyright © 2017 Amazon.com or its affiliates. All rights reserved. Amazon, Alexa, Echo, Echo Show, Echo Dot, and all related logos and motion marks are trademarks of Amazon.com, Inc. or its affiliates.